

中田るか先生 : Neurology(2010)74:1351-1357

“ABCD では物足りない！？”

Multicenter external validation of the ABCD² score in triaging TIA patients

【背景】2005年、Lancet誌に、TIA発症後の早期の脳卒中への進展のハイリスク患者を同定するスコアとして ABCD (Age, BP, Clinical features, duration of symptom) score なるものの有用性が報告され注目を集めました。その後 ABCD に Diabetes を加えた ABCD² score の予知能が評価されるようになり、今回、その有用性、cut off などの検討が prospective 研究により行われました。

【方法】151名のTIA患者を ABCD² score の程度でリスクを層別化し、その後の早期の脳卒中発症を検討しました。ABCD² score とは、Age>60:+1, sBP>140 or dBP>:+1, unilateral weakness:+2, speech disturbance:+1, duration of symptom 10-59分:+1, >60分:+2として、点数化するものです。

【結果】ABCD² score が、0-3をLow risk群、4-5をmoderate risk群、6-7をhigh risk群としその後の脳卒中への進展をみると、high risk群はTIA後、90日間に43%脳卒中を発症しているのに対し、Low risk群では4%にとどまり、優れた進展予知能が示されました。TIA後の脳卒中が7日以内あるいは90日以内に出現するリスクは、ABCD² score の点数上昇に伴い、明らかにリスク上昇を認めました。ABCD² score 2点より高い症例は2点以下の症例に比べて、約5倍の危険率で脳卒中が発症してくることが明らかとなりました。

【結論】このように、TIAから早期の脳卒中進展を予測するには、もう一つのD(Diabetes)が重要というのが、今回の結論のようですが、若干、手前ミソでしょうか。。。(文責 阿比留)